

## 平成26年度 第42回 千葉県中学校バスケットボール選手権大会 総評

千葉県バスケットボール協会主催の第42回千葉県中学校バスケットボール選手権大会は5月31、6月1、7、8日の4日間、八日市場ドームをメイン会場に行われた。今大会は、例年夏の総体や秋の新人戦に比べ、各支部から多くのチームが参加できる大会であったが、本年度より各地区からの出場チーム枠が増やされて、全56チームのトーナメントで競う大規模大会となった。各地区のより多くの選手たちの活躍が見られる大会である。

男子のベスト4にはシード校の前原中(船橋)、嶺南中(安房)、八千代松陰中(八千代)、葛飾中(船橋)が顔をそろえた。男子準決勝の前原中対嶺南中は、序盤から前原中のアウトサイドシュートがよく決まり、落ち着いたゲーム運びを見せる。嶺南中もインサイドからオフェンスを組み立て食い下がるも前原中のリードが徐々に広がり、そのまま試合終了。前原中が新人大会に引き続く連覇に向けて駒を進めた。また、八千代松陰中対葛飾中は、鋭いドライブやジャンプシュートで得点を重ねた葛飾中が、強力なインサイドプレーを軸とする八千代松陰中を振り切り、決勝へと進んだ。

男子決勝は、船橋地区同士のカードとなる前原中と葛飾中との一戦となった。地区大会のリベンジをねらう葛飾中は、アウトサイドシュートや積極的なドライブを仕掛けていった。対する前原中はマンツーマンディフェンスで迎えうち、スティールなどからリズムを掴み⑦保泉のアウトサイドシュートで得点を重ね、前半を21点差の前原中リードで折り返した。第3Qに入り葛飾中も早いパス回しや1対1から外角シュートを放つがゴールに嫌われ、なかなか点につながらない。前原中は粘り強いディフェンスからの速攻や、④永倉、⑧松岡らのシュートがよく決まり、葛飾中を突き放していく。第4Q、葛飾中は⑧加藤のドライブや⑦清野のジャンプシュートで追いつがるも、点差は詰まらず試合終了。前原中が23年ぶり2度目の選手権大会優勝を飾った。

女子のベスト4には、新人戦に続く連覇、そして今大会5連覇をねらう王者昭和学院中(市川・浦安)、シード校の福田中(葛北)、ノーシードながら勝ち上がってきた大原中(夷隅)、船橋中(船橋)が顔をそろえた。

女子準決勝の昭和学院中対大原中は第1ピリオドから昭和学院中のペースとなる。インサイドとアウトサイドでバランスよく得点を重ねる昭和学院中が大原中を振り切り決勝へと駒を進めた。また、福田中対船橋中の対戦では、福田中がペースを握り前半リードで折り返した。しかし厳しいディフェンスで徐々に点差を縮めた船橋中が、第4Qに逆転しそのまま得点を突き放して決勝進出を決めた。

女子決勝では、序盤から昭和学院中が素早い速攻と④佐々木の力強い1対1などで優位に試合を進めた。船橋中も⑦石井のジャンプシュートなどでくらいついていく。第2Q途中で船橋中は1点差に追いつくが、昭和学院中は慌てずバランスの良い攻撃で確実に得点を重ね7点差で折り返した。後半に入り船橋中はディフェンスからリズムを掴み、⑮根津のシュートなどで徐々に点差を縮めていき、第4Qで遂に逆転に成功する。対する昭和学院中は堅実なプレーを重ね、残り12秒で⑥池見のシュートが決まり同点に追いつき延長戦に持ち込む。延長に入ると昭和学院中が立て続けに得点を決め、追いつがる船橋中を振り切り、4点差で勝利。5年連続16回目の優勝を飾った。

最後に、TO指導や会場の準備など開催地である香取支部、東総支部の役員、関係者の皆様のご尽力により大会を無事終えることができました。同時に、県大会には出場できなかったものの、生徒役員という形で駐車場係、TO、接待などを意欲的に取り組んでくれた支部の中学校バスケットボール部の生徒たちにも感謝致します。

男子	優勝	船橋市立前原中学校
	準優勝	船橋市立葛飾中学校
	第3位	南房総市立嶺南中学校 八千代松陰中学校
	ベスト8	市川市立福栄中 市原市立辰巳台中 香取市立佐原中 君津市立君津中

女子	優勝	昭和学院中学校
	準優勝	船橋市立船橋中学校
	第3位	いすみ市立大原中学校 野田市立福田中学校
	ベスト8	市川市立第四中 四街道市立四街道北中 船橋市立八木が谷中 木更津市立太田中